

「設置の趣旨等を記載した書類」に関する資料

目次	---	p. 31
1. 国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書－概要	---	p. 33
2. シミュレーション(今後の教員採用推計、入学定員の適正規模推計)	---	p. 35
3. 県内・近隣大学中学免許状況	---	p. 37
4. 教員育成指標概要		
4-1. 栃木県教員育成指標	---	p. 39
4-2. 群馬県教員育成指標	---	p. 41
5. 栃木県・群馬県教員採用試験における宇都宮大学・群馬大学の学生の状況	---	p. 43
6. 履修表		
6-1. 履修表	---	p. 45
6-2. 履修表概要	---	p. 63
7. カリキュラムツリー	---	p. 71
8. 履修モデル(小学校)	---	p. 73
9. シラバス		
9-1. シラバス (小学校教科算数)	---	p. 77
9-2. シラバス (中学校教科生物科学)	---	p. 78
10. 教育実習関係資料		
10-1. 実習施設一覧	---	p. 79
10-2. 教育実習受入承諾書	---	p. 89

附： 全体構想の概要図
Forefront 科目の概要

教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて
—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書—
概要

平成29年8月29日

改革の目的

教員需要の減少期の到来の一方で、教員としての専門性の高度化が求められる今日、我が国の教員養成の中心的な役割を果たすべき国立教員養成大学・学部等が、限られた資源の中で、エビデンスに基づいて教員養成機能を着実に高め、我が国の学校教育全体の質の向上をリードすること。

教員養成機能の強化

○確実なPDCAサイクルの実現

教員養成における量的・質的なものを含む総合的な観点からのエビデンスに基づく目標の設定、実行、結果の検証、評価を通じて着実に課題を改善する、目に見える形のPDCAサイクルの実現

○「協議会」を通じた地域との連携

法定化された教育委員会等との「協議会」への参画を通じた、教員のライフステージに応じた資質向上への体系的な関与と、地域の最新のニーズを踏まえた教員養成カリキュラムへの改善

○教員就職率の引き上げ等

教員志望の高い学生等の受け入れ等を通じた教員就職率の向上や、実践探究の場と学問探究の場の両方に軸足を置く大学教員の比率の向上、「教員養成学」に相当する学問分野の発展による教育の質の向上

○教職大学院の教育内容の充実

教員養成機能の修士課程からの移行、学校現場の実情に即した実践的な教科領域の教育の導入、学部と教職大学院との一体化、学校外の資源や「理論と実践の往還」の手法等を活用した最新の教育課題への対応

○現職教員の教育・研修機能の強化

教職大学院を活用して、教員の養成のみならず現職教員の教育・研修の機能も強化

○予算、人材、一定の規模と効率性の確保による機能強化

- ・各地域の今後の教員需要の推移等に基づく入学定員の見直し
- ・近隣の国公立大学との間で、一部教科の教員養成機能の特定大学への集約や、共同教育課程の設置等の連携・協力
- ・総合大学と教員養成単科大学など、大学間で教員養成機能を統合
- ・附属学校の現在の規模や学校数等の検証 など

予算、人材、一定の規模と効率性の確保による機能強化について、各大学が、第3期中期目標期間中(平成33年度まで)に一定の結論をまとめるべき。

併せて、国は、改革を進める大学に対して財政面を含む支援を検討するとともに、各大学の機能強化と効率化を後押しする大学設置基準の改正を検討するべき。

附属学校の存在意義の明確化と大学のガバナンス

- ・公私立とは異なる国立大学附属学校としての存在意義・役割・特色の明確化
- ・「入学者の選考—教育・研究—成果の還元」の有機的なつながりの明確化
- ・教職生活全体を見据えた教員研修に貢献する学校への機能強化と、校長の常勤化

栃木県教員採用の推計、宇都宮大学の卒業生の推計、宇都宮大学の推計(入学定員)推計予測

	第3期						第4期			第5期		第6期
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H36	H39	H42	H45	H47	
生徒数	103,747	102,325	100,715	99,051	97,745	95,312	90,619	86,245	81,871	77,497	74,581	
前年差	-1,358	-1,442	-1,610	-1,664	-1,306	-2,433	-1,614	-1,458	-1,458	-1,458	-1,458	
生徒数/教員1人	114.8	14.6	14.4	14.3	14.1	13.9	13.4	12.9	12.4	11.9	11.5	
教員数	6,995	6,994	6,980	6,946	6,937	6,847	6,758	6,686	6,608	6,523	6,463	
前年差	12	-1	-14	-33	-9	-90	-34	-25	-27	-29	-31	

生徒数	55,235	53,888	53,445	52,619	51,604	51,429	49,286	47,591	45,896	44,201	43,071
前年差	-566	-1,347	-443	-826	-1,015	-1,75	-1,073	-565	-565	-565	-565
生徒数/教員1人	12.9	12.9	12.8	12.7	12.7	12.6	12.3	12.1	11.9	11.6	11.5
教員数	4,268	4,187	4,169	4,130	4,076	4,088	3,994	3,933	3,870	3,804	3,758
前年差	-12	--81	-18	-39	-54	12	-61	-21	-21	-22	-23

小中教員計 (a)	11,263	11,181	11,148	11,076	11,013	10,935	10,752	10,619	10,478	10,327	10,221
定年退職予定数 (b)	292	328	402	387	404	394	388	396	288	205	174
退職後人数 (c = a - b)	10,971	10,853	10,746	10,689	10,609	10,541	10,364	10,223	10,190	10,122	10,047
採用予定数 (a - 前年度c)	384	424	424	330	324	326	315	313	250	180	148
県内採用者(過去3年占有率11%)	36	41	47	36	36	36	35	34	27	20	16
卒業生数(卒業者に占める割合20%)	152	157	235	180	180	180	175	170	135	100	80

新卒者県内(正規)占有率	9.38	9.67	11.1	10.9	11.1	11.0	11.1	10.9	10.8	11.1	10.8
卒業生全体に占める割合	23.7	26.1	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

※ 宇都宮大学による推計予測

群馬県教員採用の推計、群馬大学の卒業生(入学定員)推計予測

	第4期					第5期					第6期
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H36	H39	H42	H45	H47
生徒数	103,990	102,310	101,006	99,142	96,869	94,518	87,391	81,541	75,691	69,841	65,941
前年差	-1,837	-1,680	-1,304	-1,864	-2,273	-2,351	-2,302	-1,950	-1,950	-1,950	-1,950
教員1人あたり 生徒数	15.10	14.90	14.70	14.50	14.20	14.00	13.10	12.30	11.60	10.80	10.30
教員数	6,891	6,882	6,855	6,828	6,801	6,774	6,693	6,612	6,531	6,450	6,396
前年差	-46	-9	-27	-27	-27	-27	-27	-27	-27	-27	-27
生徒数	55,957	54,421	53,811	52,817	52,096	52,008	48,998	47,072	45,146	43,220	41,936
前年差	-787	-1,536	-610	-994	-721	-88	-1,375	-642	-642	-642	-642
教員1人あたり 生徒数	13.40	13.20	13.10	12.90	12.80	12.90	12.30	12.10	11.80	11.50	11.30
教員数	4,167	4,138	4,114	4,090	4,066	4,042	3,970	3,898	3,826	3,754	3,706
前年差	-33	-29	-24	-24	-24	-24	-24	-24	-24	-24	-24
小中教員計	11,058	11,020	10,969	10,918	10,867	10,816	10,663	10,510	10,357	10,204	10,102
定年退職予定数	370	374	360	380	386	346	360	312	185	162	192
退職後人数		10,646	10,609	10,538	10,481	10,470	10,303	10,198	10,172	10,042	9,910
採用予定数	326	295	323	309	329	335	281	229	148	132	131
県内採用者数(25%)	71	71	81	77	82	84	70	57	37	33	33
卒業者数(34%)	219	229	238	226	241	247	206	168	109	97	97
新卒者県内占有率	21.78	24.07	25.08	24.92	24.92	25.07	24.91	24.89	25.00	25.00	25.19
卒業生に占める割合	32.42	31.00	34.03	34.07	34.02	34.01	33.98	33.93	33.94	34.02	34.02

※ 群馬大学による推計予測

栃木・群馬両県内大学の小学校・中学校教科免許状況

栃木県

	小学校	中学校									
		国語	数学	理科	社会	英語	保健	音楽	美術	家庭	技術
宇都宮大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A大学	○										
B大学	○			○	○	○					
C大学				○							
D大学								○			
E大学											○
F大学		○	○	○	○	○					

群馬県

	小学校	中学校									
		国語	数学	理科	社会	英語	保健	音楽	美術	家庭	技術
群馬大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
G大学		○							○		
H大学	○			○	○	○					
I大学	○			○							
J大学	○				○	○					
K大学	○				○	○					
L大学				○							
M大学				○			○				
N大学							○				
O大学	○						○				

とちぎの求める教師像

～自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教師～

人間性豊かで信頼される教師
幅広い視野と確かな指導力をもった教師
教育的愛情と使命感をもった教師

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
全体指標	教員としての基礎・基本を理解するとともに、教職生活全体を通して自律的に学び続けようとする強い意志を持っている。	教育活動に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、同僚からの助言等を得ながら職務を遂行している。	専門的な知識・技能や、新たな教育課題に対応する実践的指導力を身に付けるとともに、同僚と協働しながら職務を遂行している。	学校の課題解決を目指し、組織を活性化させたり企画力・実践力を発揮したりするなど、ミドルリーダーとして学校運営に積極的に参画している。	教職生活を通して培った経験のもとリーダーシップを発揮し、学校の教育目標の達成を目指して積極的に学校経営を支え続けている。

○学習指導に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
学習指導全般	学習指導の基礎・基本を理解するとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志を持っている。	学習指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態をとらえ、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。	指導資料の活用や研修会への参加、同僚との情報交換等を通して、児童生徒の主体的な学びを促す学習指導の工夫・改善を図っている。	学習指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践においてミドルリーダーとしての役割を果たしている。	若手・中堅教員等に学習指導の範を示すとともに、課題解決に向けて、教育課程の見直しや授業改善等にリーダーシップを発揮している。
指導計画等の立案・実施	教育目標の実現に向けて、指導計画に基づいて学習指導を行うことの大切さを理解している。	学習指導要領や年間指導計画等に基づき、指導目標や評価計画、指導内容等を適切に設定して学習指導案を作成している。	学習指導上の課題を把握し、同僚と情報交換を行いながら指導計画の工夫・改善を図っている。	学年間の接続や教科横断的な視点などから、学校全体を視野に入れた指導計画の工夫・改善を図っている。	学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの改善・充実にリーダーシップを発揮している。
指導方法・教材研究の工夫	授業の基本技術	授業展開の仕方や教材研究の進め方を理解している。	話し方、板書の仕方、発問の仕方等の基本技術を身に付けるとともに、児童生徒の理解度や反応などを的確に捉え、同僚の助言等を得ながら、指導方法の工夫・改善に努めている。	研修会への参加や同僚との情報交換等を通して、授業力の向上に積極的に取り組んでいる。	児童生徒の実態を踏まえ、教科や学年を越えて同僚と協働しながら、授業力の向上に積極的に取り組んでいる。
	教材研究		授業のねらいを明確にするとともに、ICT機器などの教材・教具を工夫するなど、児童生徒の理解を深めるための指導の工夫を行っている。	研修会への参加や同僚との情報交換等を通して、児童生徒の理解を深めるための教材の開発や指導の工夫に取り組んでいる。	教科横断的な視点を踏まえ、教科や学年を越えて同僚と協働しながら、教材の開発や内容配列の工夫に取り組んでいる。
評価の工夫	指導と評価の一体化を進める大切さを理解している。	児童生徒の学習状況を確実に把握し指導に生かすことができるよう、同僚からの助言等を得ながら評価方法の工夫・改善に努めている。	児童生徒の学習状況をより多面的に把握し指導に生かすことができるよう、同僚と協働しながら評価方法の工夫・改善に努めている。	学習指導上の課題を踏まえ、改善に向けた評価方法等について同僚と協働しながら組織的に研究、実践している。	指導と評価が一体となった評価方法等について研究を続けるとともに、同僚への支援・助言を行っている。

○児童・生徒指導に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
児童・生徒指導全般	児童・生徒指導の基礎・基本を理解しているとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志を持っている。	児童・生徒指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態をとらえ、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。	指導資料の活用や研修会への参加、同僚との情報交換等を通して、指導の工夫・改善を図っている。	児童・生徒指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践において、ミドルリーダーとしての役割を果たしている。	若手・中堅教員等に児童・生徒指導の範を示すとともに、課題解決に向け、指導計画の見直しや関係機関等との連携等にリーダーシップを発揮している。
児童生徒との信頼関係の構築	児童生徒理解	児童・生徒指導における児童生徒理解と信頼関係づくりの大切さを理解している。	日常的な関わりや同僚からの情報を得ながら、児童生徒の性格や心身の状況等の把握に努めている。	同僚と積極的に情報交換を行うなどして、児童生徒の多面的・多角的な理解に努めている。	児童生徒一人一人に関する様々な情報を学年や学校全体で共有できるよう、教職員間の連絡・調整に当たっている。
	信頼関係づくり・教育相談		カウンセリングマインドをもって児童生徒一人一人に共感的、受容的に接し、信頼関係の構築に努めている。	研修等を通して教育相談の基本を学び、児童生徒の相談を受け止め、適切に対応することにより、信頼関係を築いている。	児童生徒の悩み等を的確に把握し、問題解決に向けて同僚と協働しながら対応している。
児童生徒への指導・援助	予防的・開発的な児童・生徒指導	児童・生徒指導の意義とともに、いじめ、不登校等への対応の基本について理解している。	基本的な生活習慣を身に付けさせる指導に、同僚からの助言等を得ながら取り組んでいる。	集団指導や個別指導を通して、自己指導能力を育む児童・生徒指導に同僚と協働しながら取り組んでいる。	児童生徒の自己指導能力を育む方を積極的に提案するとともに、学年や部を越えて実践できるように連絡・調整に努めている。
	問題行動等への対応		組織的な対応の重要性を理解するとともに、日頃から児童生徒の様子を観察し、問題行動等の未然防止、早期発見、迅速な対応に努めている。	事例研究等を通して問題行動等への対応について理解を深めるとともに、問題行動等に対して同僚と協働しながら対応している。	問題行動等の背景、原因を的確に把握し、解決のための方策を考えるとともに、関係職員と連携しながら組織的に対応している。
	特別活動、進路指導等への取組		特別活動や進路指導等の意義を理解し、同僚からの助言等を得ながら指導している。	キャリア教育の視点をもち、同僚と協働しながら、個に応じた適切な指導を行っている。	学校の特色を生かした効果的な特別活動、進路指導等の在り方について具体策を考え、同僚と協働しながら組織的に取り組んでいる。

○参画・経営に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
参画・経営全般	組織の一員として自分の役割を果たそうとする強い意志をもっている。	「報告・連絡・相談」を確実に行うとともに、同僚からの助言等を得ながら、校務分掌の遂行に当たっている。	社会の変化に目を向け、広い視野をもつとともに、同僚と協働しながら校務に組織的に取り組んでいる。	学校経営上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践において、ミドルリーダーとしての役割を果たしている。	リーダーシップを発揮しながら同僚の意欲の向上や組織力の強化を図るとともに、学校の教育目標の達成に向けて積極的に学校経営に参画している。
校務分掌への取組	校務の一端を担い、組織の一員として働くことの大切さを理解している。	担当する校務分掌について、同僚からの助言等を得ながら、迅速・正確に処理している。	担当する校務分掌について、同僚と協働しながら、工夫・改善しながら取り組んでいる。	校務分掌への取組を通して学校の課題を把握し、他の校務分掌との連携を図りながら、改善に努めている。	学校の教育目標の達成に向けて校務分掌に取り組むとともに、組織間の連携が図られるよう、同僚への支援・助言に積極的に取り組んでいる。
学級・学年経営・参画	学級・学年経営の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。	学年主任や他の担任の助言等を得ながら、学びに向かう集団に高めていくための学業指導の充実に取り組んでいる。	担当する学級及び学年の現状を把握し、同僚と協働しながら、学級・学年経営に参画している。	学校の教育目標等に基づき、同僚と協働しながら、よりよい学級経営・学年経営を目指して、工夫・改善に取り組んでいる。	学年全体の学級経営の現状を把握し、学校の教育目標等の実現に向けて、リーダーシップを発揮しながら、組織的な学年経営に取り組んでいる。
学校経営への参画	組織の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。	「報告・連絡・相談」を確実にしながら、校内組織での自らの役割を果たしている。	学校経営方針を理解し、同僚と協働しながら、校務に組織的に取り組んでいる。	学校組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントについて理解し、学校の教育目標の達成、学校経営上の課題の解決のために積極的に取り組んでいる。	学校の教育目標の達成や学校経営上の課題の解決に向けた組織体制づくりにリーダーシップを発揮しているとともに、同僚への支援・助言を積極的に行っている。
日常の教育活動における安全確保	全ての教育活動の基盤となる安全確保の重要性について理解している。	同僚からの助言等を得ながら、教育環境、教育活動の安全確認に努めている。	学校の安全計画を理解し、同僚と協働しながら確実な実施に努めている。	安全担当者等と協働しながら、事故の未然防止に努めるとともに、安全上の課題の把握に努め、その解消に速やかに取り組んでいる。	日頃より事故の未然防止に努めるとともに、事故発生を想定した具体的な対応について、同僚と十分に共通理解を図り、支援・助言を行っている。
家庭・地域・関係機関等との連携	家庭・地域・関係機関等と連携・協働することの大切さを理解している。	学習指導、児童・生徒指導をはじめとする校務全般において、同僚からの助言等を得ながら、家庭や関係機関等との連携・協働に努めている。	学校内外の関係者との情報交換を積極的に行い、家庭や関係機関等との連携・協働の促進に努めている。	家庭や関係機関等との連携・協働がより効果的なものとなるよう、学校内外の関係者との連絡・調整を積極的に行っている。	家庭や関係機関等への情報提供や連携・協働の方法について、同僚への支援・助言に努めるとともに、校内の組織体制づくりにリーダーシップを発揮している。

○意欲・態度に関する指標

		採用時の姿	ステージⅠ～ステージⅣ
教育的愛情・熱意	教育的愛情	教育的愛情と使命感をもった教師になるという強い意志をもっている。	児童生徒に教育的愛情をもって接している。
	信念、熱意		正しい信念のもと、熱意と使命感をもって仕事に取り組んでいる。
	人権尊重の精神		人権尊重の観点を重視し教育活動を行っている。
誠実・品位、公正、法令の遵守等	誠実・品位		礼儀正しい態度で誠実に仕事に取り組んでいる。
	公正		偏りが無い見方・考え方で公正に勤務している。
	法令の遵守		職務・勤務の在り方を自覚し、厳正に勤務している。
責任感・寛容性・協調性等	責任感		責任をもって職務を遂行している。
	寛容性		異なる意見・立場を尊重し、職務にあたっている。
	協調性		同僚と協調して職務にあたっている。
研修に対する意欲			自己の能力向上のために、研究と修養に取り組んでいる。

群馬県教員育成指標の概要

平成29年12月
群馬県教育委員会

I 群馬県が求める教員像

1 社会人としての優れた識見を有する教員

- 広く豊かな教養を身に付け、社会人として適切に判断して行動することができる。
- 高い倫理観と規範意識を備え、児童生徒の鑑（手本）となる言動をとることができる。
- 自らの職責を自覚し、責任をもって職務を遂行することができる。

2 幅広い視野と高い専門性を有する教員

- 教科等に関する専門的な知識や技能を有し、主体的・対話的で深い学びにより、群馬の子供たちに「時代を切り拓く力」を育むことができる。
- 情報化やグローバル化など社会の変化をとらえ、専門性を高めるために日々努力し、学び続けることができる。
- 児童生徒の実態や発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性を尊重し、その可能性を最大限に伸ばすとともに、共生社会の形成を目指すことができる。
- 学校教育目標の実現に向けて、保護者や地域の思いや願いを生かしながら、組織的・計画的に教育活動を行うことができる。

3 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員

- 教育的愛情と指導への情熱をもち、多様な考えや特性を認めながら児童生徒の可能性を伸ばすことができる。
- 組織の一員としての自覚をもって連携・協力するとともに、互いに高め合うことができる。
- 郷土の歴史や文化、生活等について理解し、保護者や地域、関係機関等と連携することができる。

II ステージごとの求める資質能力

群馬県の教員としての基礎的素養

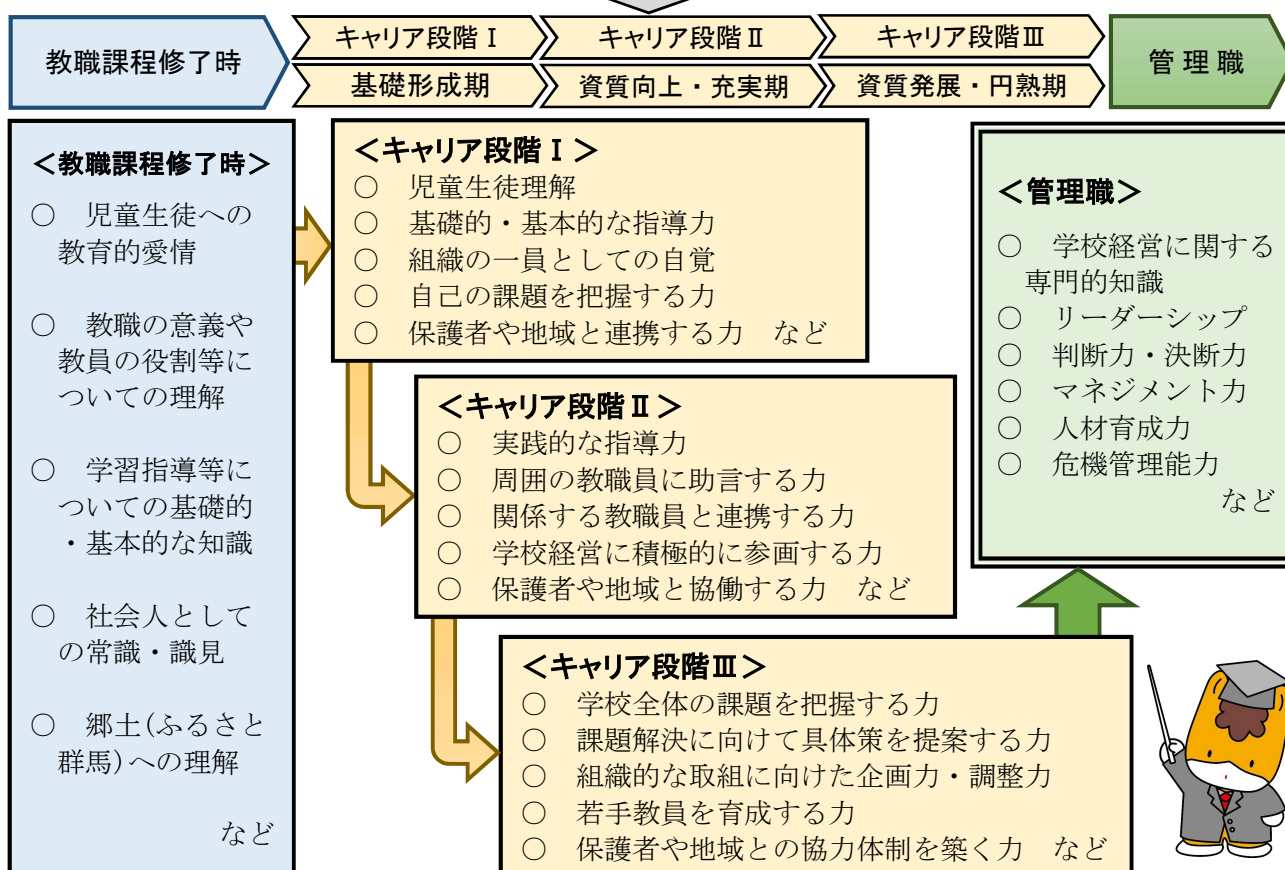
教育的愛情・情熱

使命感・責任感

規範意識・人権感覚

コミュニケーション能力

学び続ける姿勢



栃木県・群馬県教員採用試験における宇都宮大学・群馬大学の学生の状況

宇都宮大学

試験区分	県内採用合格者			採用合格者(宇都宮大学)			配属先			
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H30
小学校	253	256	305	37	22	25	37	22	25	32
中学校	133	128	121	15	11	13	15	11	13	14
高等学校	69	73	79	5	3	1	5	3	1	4
特別支援学校	36	33	33	2	1	0	2	1	0	1
計	491	490	538	59	37	39	59	37	39	51

栃木県の教員採用は、小学校及び中学校単位で行われ、配属も採用時のままとなっている。

採用は、小学校の方が中学校の2倍程度と、小学校が主となっている。

群馬大学

試験区分	県内採用合格者			採用合格者(群馬大学)			配属先			
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H30
小学校	30	30	40	1	1	2	3	46	53	57
中学校	299	296	255	83	70	69	77	25	18	23
高等学校	64	72	69	7	6	9	3	4	8	3
特別支援学校	31	34	31	3	4	9	8	6	10	8
計	424	432	395	94	81	89	91	81	89	91

群馬県は中学校で多数採用しているが、配属先は大半が小学校となっている。

群馬県の特徴として、中学校合格者を多く採用し、そこから小学校に振り分けるといふシステムをとっている。

